

＜なたね梅雨＞春めいてくると雨か曇りの日が多く、晴れても黄砂などで地平線が霞んでいます。写真は雨上がりの朝に見られた久しぶりの富士です。晩秋から冬と違い霞んでいます。手前の雑木林は何となく赤みを帯びて膨らみ春の気配を感じさせます。足元では菜の花が満開です。この時期の雨が“菜種(なたね)梅雨”、おぼろ月が“菜種月”です。これらから思い浮かぶのが唱歌「おぼろ月夜」、「菜の花畑」に始まり“朧月夜”で締めくくります(高野辰之作詞)。「この菜の花は野沢菜か」と気になる人(私もその一人)がいるのです。「菜の花や月は東に日は西に(蕪村)」はアブラナでしょうか。春を味わうのはカラシナの蕾、チンゲンサイの花も菜の花。



この時期の雨が“菜種(なたね)梅雨”、おぼろ月が“菜種月”です。これらから思い浮かぶのが唱歌「おぼろ月夜」、「菜の花畑」に始まり“朧月夜”で締めくくります(高野辰之作詞)。「この菜の花は野沢菜か」と気になる人(私もその一人)がいるのです。「菜の花や月は東に日は西に(蕪村)」はアブラナでしょうか。春を味わうのはカラシナの蕾、チンゲンサイの花も菜の花。

＜里の春＞芽の膨らみ出した雑木林でひときわ目を惹くのがコブシの大きな白い花です。ずっと控え目でよく見ると可愛らしいのが小さな赤紫のアケビの花です。どちらも寒い冬を耐えた“里の春”の趣があります。「歩み来て辛夷(こぶし)の下に話しけり(みどり女)」、



＜コブシ＞

＜アケビ＞

のどかですね。アケビはどうしても「食べごろよ木通(あけび)があんと口を開け(国東鯉城)」と食欲が勝ち“里の秋”になります。

(辛夷) 鎮痛薬シンイのもとがコブシです。アケビも実を干したものは“木通”という利尿薬になることからこの漢字を宛てます。

＜水温む＞ビオトープの池が温み水底ではコウホネが水面(みなも)に葉を伸ばす準備をしています。ハンゲショウやハナショウブも芽を出しています。注ぐ流れも温んできたので、ミソハギの新芽が陽に映えます。カモの去った水中ではメダカの動きが活発になってきました。静かな水面に幾



＜コウホネの準備＞



＜アメンボ＞



＜ミソハギの新芽＞

つも小さな波の環が動いています。冬を越し飛んできたアメンボです。ところでアメンボは“水馬”と書き、俳句ではミズスマシとごっちゃになっているようです。「川上へ頭そろへて水馬(子規)」。この句の“水馬”は“みずすまし”と読むのでしょうか。

(文と写真：松本正勝)